

令和5年度第1回ふなばし市民大学校運営協議会会議録

(令和5年10月19日作成)

1 開催日時

令和5年8月9日(水曜日)午後1時30分～2時25分

2 開催場所

ふなばし市民大学校 7階 第2教室

3 出席者

- (1) 委員 高山委員(会長)、石川委員(副会長)、山口委員、山須委員、川田委員、山本委員、田中委員、石山委員
- (2) 事務局 藤井社会教育課長、大橋主査、亀田副主査、捧副主査、木内主任主事、岡本主任主事、古川主事

4 欠席者 松丸委員

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

- (1) 市職員の異動に伴う新委員の紹介について
- (2) 令和4年度修了生及び令和5年度入学生について
- (3) 特別講座の実施について
- (4) その他

※すべて公開

6 傍聴者数 0人

7 決定事項

- (1) 令和4年度修了生及び令和5年度入学生について、事務局から報告があり、質疑応答及び意見聴取を行った。
- (2) 特別講座の実施について、事務局から報告があり、質疑応答及び意見聴取を行った。

8 議事 次のとおり

9 資料・特記事項

(1) 傍聴者配布用資料

- ① 次第
- ② ふなばし市民大学校運営協議会委員名簿
- ③ 席次表
- ④ 【資料1】ふなばし市民大学校運営協議会要綱
- ⑤ 【資料2-1】令和4年度ふなばし市民大学校在籍者数
- ⑥ 【資料2-2】いきいき学部 令和4年度末アンケート集計結果
- ⑦ 【資料2-3】まちづくり学部 令和4年度末アンケート集計結果
- ⑧ 【資料2-4】令和5年度ふなばし市民大学校在籍者数
- ⑨ 【資料2-5】令和5年度ふなばし市民大学校入学者（年代分布）
- ⑩ 【資料2-6】学部ごとの年代分布（割合）
- ⑪ 【資料2-7】入学者数一覧（町丁別）
- ⑫ 【資料2-8】入学者数一覧（ブロック別）
- ⑬ 【資料3】ふなばし市民大学校のリカレント教育の推進に係る特別講座実施要綱
- ⑭ 働き方はひとつじゃない パラレルキャリアコース（チラシ）

(2) 特記事項

今回は、令和5年11月中旬に開催予定です。開催日時等は、後日お知らせします。

10 問い合わせ先

船橋市教育委員会 生涯学習部 社会教育課 ふなばし市民大学校

047-460-6311

午後 1 時 3 0 分開会

○高山会長

それでは、ただいまより令和 5 年度第 1 回ふなばし市民大学校運営協議会を開会いたします。

まず、本日の出欠状況について、事務局からご報告願います。

○事務局（大橋主査）

事務局です。着座にて失礼いたします。

本日の出欠状況について報告いたします。本日は、ふなばし市民大学校運営協議会委員 9 名に対し、8 名のご出席をいただいております。

なお、松丸委員におかれましては、都合により欠席されるとのご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

○高山会長

ありがとうございました。

次に、会議の公開及び傍聴について、事務局からご報告願います。

○事務局（大橋主査）

まず初めに、会議の公開についてご報告をいたします。船橋市情報公開条例第 26 条の規定に基づき設置する附属機関及びこれに準ずるものの会議は原則として公開することになっております。この会議もこれに基づきまして原則公開となります。また、船橋市附属機関等の会議の公開実施要綱に基づき、会議終了後おおむね 1 週間以内に会議概要を公表し、その後、個々の委員の皆様の発言内容を含めまして審議経過等が明確となるように会議記録を作成し、委員名簿も含めて市のホームページで公表をさせていただきます。そのため、本日は会議を録音させていただきますことをご了承ください。

続きまして、傍聴人についてご報告をいたします。傍聴人については受付をいたしましたが、傍聴希望はございませんでした。

以上です。

○高山会長

ありがとうございました。

それでは、議事に移ります。

本日の会議の議題は、お手元に配付した次第のとおり、議題 1 「市職員の異動に伴う新

委員の紹介について」、議題2「令和4年度修了生及び令和5年度入学生について」、議題3「特別講座の実施について」、議題4「その他」とし、この順で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高山会長

ありがとうございます。それでは、議事に入ります。

議題1「市職員の異動に伴う新委員の紹介について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局（大橋主査）

では、議題1「市職員の異動に伴う新委員の紹介について」、ご説明をさせていただきます。

まず、資料1「ふなばし市民大学校運営協議会要綱」をご覧ください。

ふなばし市民大学校運営協議会要綱第3条に定める委員のうち、(2)生涯スポーツ課長及び(3)市民協働課長に変更がございましたので、報告いたします。

まず、(2)生涯スポーツ課長につきまして、令和5年4月1日付で人事異動があったことから、石山公唯課長を新たな委員に任命いたしました。

○石山委員

石山でございます。よろしくお願いたします。

○事務局（大橋主査）

続きまして、本日欠席でございますが、(3)市民協働課長につきましても、同じく令和5年4月1日付で人事異動があったことから、松丸奈美枝課長を新たな委員に委嘱いたしました。

現在の委員は、委員名簿のとおりとなっております。

新たな委員のご説明については以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの議題1「市職員の異動に伴う新委員の紹介について」、質問等がありましたらお願いいたします。

特段よろしいですか。

それでは、議題1を終了いたします。

続きまして、議題2「令和4年度修了生及び令和5年度入学生について」の議事に入り

ます。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（大橋主査）

それでは、議題2「令和4年度修了生及び令和5年度入学生について」、ご報告をいたします。

まず、令和4年度の修了生についてご報告いたします。資料2-1「令和4年度ふなばし市民大在籍者数（追加募集含む全体）」という資料をご覧ください。

令和4年度の修了者数については、在籍者数のところをご覧ください。まちづくり学部92名、いきいき学部236名、合計328名でございました。入学者数が347名でございましたので、在籍率（修了率）が94.5%となっております。令和3年度と比べますと2.08ポイント高い結果となりました。平成30年度以降では、一番高い数値となっております。

続きまして、資料2-2と2-3、こちらは年度末に学生に実施しましたアンケートの集計結果となります。資料2-2がいきいき学部、資料2-3がまちづくり学部となっております。設問が多岐にわたっておりますので、1つずつ説明してまいりますと、かなりの時間がかかってしまいますので、ここでは各学部の特徴的な部分についてご説明をさせていただきます。

まず、資料2-2をご覧ください。いきいき学部へのアンケート結果となります。

いきいき学部は、学生生活を通して、生きがいつくりや仲間づくりを目的としております。「生きがいつくりや仲間づくりができましたか」という設問を設けまして、それに対する各学科の満足度はグラフのとおりとなりました。特徴的な部分としましては、園芸学科1と2というクラスがございまして、1が野菜づくり、2がお花づくりのクラスですが、こちらは全員の方が「満足」または「ほぼ満足」と回答されております。

一方で、パソコン学科1と2というクラスがあるのですが、これは月曜日の午前と午後に行っている授業です。こちらの満足度が「あまり満足していない」「全く満足できなかった」と回答された方が多いという結果となりました。

園芸学科の授業では、学生がみんな一緒になって作業をすることが多いので、自然と仲間づくりができますが、逆にパソコン学科の授業は、どうしても授業中は個人ごとの作業になりがちになってしまうこと、新型コロナウイルスの影響でクラス会活動は制限があるながらもできたのですが、パソコン学科1と2につきましては、クラスの中で活動することに心配の声がございましたので、暑気払いやお疲れさま会の開催を見送りました。こ

ういったところが大きく影響したのではないかなと考えております。

資料の中のグラフにはございませんが、いきいき学部全体の満足度を見ますと、「十分に満足している」と「ほぼ達成し、まあまあ満足している」と回答した人の合計が、177名中143名となりまして、割合は80.8%となりました。令和4年度についても、新型コロナウイルスの影響は少なからずあり、感染状況等を見ながらのクラス会活動となりました。ただ、令和3年度は本当に大きな影響を受けてしまいましたので、積極的なクラス会活動や仲間づくりが十分にできなかったことが影響して、「十分に満足している」や「まあまあ満足している」と回答した人の数が207名中95人と非常に少なく、割合は45.9%でした。それに比べると令和4年度は大きく上昇したということが言えるか思います。

続きまして、資料2-3をご覧ください。こちらが、まちづくり学部へのアンケート結果となります。各学科の一番最後に「ふなばし市民大学校入学当初の期待や目標は、1年間の講義や活動を通じて達成されましたか」という設問を設けております。こちらの問いに対して、「十分に達成し、満足している」と「ほぼ達成し、まあまあ満足している」と回答した方の合計が、ボランティア養成学科は18名中16名、割合で言いますと88.9%。スポーツコミュニケーション学科が21名中17名で81.0%。生涯学習コーディネーター養成学科が18名中14名で77.8%。ふなばしマイスター学科が、26名中25名で96.2%となっております。

全体の満足度で見ますと83名中72名ということで、割合としては86.7%となりました。まちづくり学部につきましては、ふなばしマイスター学科の満足度が非常に高かったところが令和4年度の特徴でありました。

以上でございます。

続きまして、令和5年度の入学生について、ご報告をさせていただきます。

資料2-4をご覧ください。

入学者数につきましては、まちづくり学部100名、いきいき学部278名、合計で378名となりました。令和4年度の入学者数が347名でしたので、比較しますと全体で31名の増加となっております。

また、退学者が出ております。8月2日現在の数字で、退学された方が4名出ておりますので、現在の在籍者数については374名となっております。退学の理由につきましては、ご家庭の事情や仕事の関係、あとは体調不良ということでお聞きしております。

続きまして、資料2-5をご覧ください。こちらは入学者378名の内訳です。入学者の男女別、最年少、最年長、平均年齢、年代分布を示した表となります。特徴的なところといたしますと、30歳代の方がパソコン学科2に入学されており、いきいき学部にしては比較的若い方が入学をされたというところでございます。

右下の欄、入学者合計から見た割合が、60歳以上が91.5%、65歳以上が81.5%、70歳以上が57.1%となっております。これはいずれも令和3年度と比べますと少し高い数値となっております、昨年度に比べると入学された方の年齢が高めということが分かります。

続きまして、資料2-6をご覧ください。こちらは学部ごとの年代分布（割合）をグラフにしたものになります。学部で比較しますと、まちづくり学部のほうが50～60歳代の割合が大きくなっており、いきいき学部のほうは70歳以上の方が61.2%、6割以上となっております。

続きまして、資料2-7、こちらは入学者378名の町丁別の表となります。例年お出ししているもので、ちょっと細かい資料になります。なかなか分析も難しいのですが、市民大学校から近い飯山満町2、3丁目から来ている方が多いかなというところでございます。

細かいデータですので、もう少し大きいブロック別の資料をご用意いたしました。資料2-8をご覧ください。船橋市は行政ブロックが5ブロックございますので、それぞれに分類した表となります。地図で見ますとピンク色の東部が一番多くなっておりまして100人、次いで、紫色の西部が76人、緑色の南部が72人、オレンジ色の中部が67人、そして、黄色の北部が一番少なく63人となっております。入学者数としては北部が一番少なくなっておりますが、北部は人口も少ないため、ブロックごとの人口との割合で比較をしてみますと、右側の数値が船橋市の行政ブロック別の人口の表ですが、人口で比較しますと、東部、南部、北部は、入学者の割合と人口がほぼ一致しております。また、西部の入学者の割合が少なくなっておりまして、中部が多いという傾向が見られました。

ふなばし市民大学校のある東町は、行政ブロック的には南部に位置しておりますけれども、立地的に中部が非常に近いということもございますので、中部の方が多いのではないかと。また、西部の方がこの校舎まで来るには、電車の乗り換え等が必要になる場合が多いということが、人数が少ない理由としてあるのではないかと考えております。

議題2「令和4年度修了生及び令和5年度入学生について」の報告は以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいま議題2「令和4年度の修了生及び令和5年度入学生について」のご説明がありましたけれども、ご質問等がありましたらお願いいたします。

どうぞ、山口委員。

○山口委員

いろいろなデータ集計、ありがとうございます。興味深い数字がいっぱい出ていました。

一つ、年代別の分布のデータが提供されていますが、これの意図するところが何かありましたらお聞かせ願いたいのと、今の市民大学校が狙っているところに合致しているのかということと、今後どういう方向に持っていくのかということまで含めて、もし何かお考えがあったらお聞きしたいなと思います。

○事務局（大橋主査）

ふなばし市民大学校ですが、平成30年度から令和元年度の2か年をかけてカリキュラムの見直しを行いまして、令和2年度からいきいき学部も18歳以上の方を対象としました。まちづくりはもともと18歳以上を対象としておりますが、若い方にも入っていただきたいという狙いがあるように思います。

今回お出した資料ですけれども、まちづくりに関しては10代、20代、30代の方が入っていらっしやらない。いきいきのほうもお一人だけというところがございます。昨年度はまちづくり学部に4名だったかと思いますが、20代の方が入学をしていただけました。今年度は授業を平日に持ってきた関係もあるかと思いますが、若い方に入学いただくことができなかった。対象を18歳以上に拡大したにも関わらず、授業を平日にやっていることにより若い方が入りにくい状況になっているということは、課題であると考えておりますので、この辺については来年度以降、検討していきたいと考えております。

○山口委員

ありがとうございます。もう一点いいですか。

○事務局（大橋主査）

はい、どうぞ。

○山口委員

今お話があったように、スポーツコミュニケーション学科だけに絞ると昨年は20代の方がいて結構幅広かったですよね。今年度を見るとそれがもとに戻ったというか、ある程

度層が圧縮されてきたような感じですがけれども、学んでいる一年の後にどうつながっていくかというところを見据えて、今の授業の雰囲気って、ざっくばらんに言うとどんな感じですか。多分ここからその次につなげていくことが大事だと思うので、その年代層が広がったときと、また今年ちょっと縮まっていますけれども、授業の中でのざっくばらんな雰囲気とかをお聞かせいただければうれしいなと思います。

○事務局（木内主任主事）

スポーツコミュニケーション学科担当の木内です。お答えします。

昨年度は山口委員のおっしゃるとおり、20代の学生さんがいたり、40代以下の年齢もそろってまして、活動的で何をすることもわいわいとやっていける雰囲気は確かにあったかと思います。

今年度につきましては、40代が1人、あとは50代から始まって合計17人ということで、確かに昨年度と比べると、何かするときに「じゃあ、私やります」みたいな勢いは感じませんが、今年度に関しては、それぞれ自分が何をしようかという目的意識が高いと感じておりますので、比べてどうこうということはありませんけれども、どちらかというとも昨年度よりも卒業した後にこういうことをしようという意識が高い方が多いように感じます。

あとは、スポーツコミュニケーション学科の授業だけではカバーしきれない部分がありまして、例えば実技で実際の競技に触れる機会は授業のカリキュラムに取り入れてはいるのですが、回数がそれほど多くないので、例えば、障がい者スポーツ協会さんとか市の生涯スポーツ課が企画しているイベント等を学生に周知して参加してもらおう。そういったことを促すとともに、教室内でできる競技の体験会というのを今年度は追加で取り入れてみたいということで、事務局としましても、地域のスポーツコミュニティリーダーを養成している学科という意識がありますので、修了後は地域に戻って活躍できるような機会とかコネクションとか、それぞれが活躍できる場を探していく機会も積極的につくっていきたいと考えています。

○山口委員

ありがとうございます。頑張ってくださいね。

○高山会長

ほかに何かございますか。

どうぞ、石川副会長。

○石川副会長

町丁別のデータを取っていらっしゃるのですが、昨年もありまして、先ほどちょっとご説明の中にもありましたけれども、この意味合いはどれだけあるのかなど。ブロックでも結果的には2つだけ数値が違いますけれども、ほぼ人口比と合っていますし、これが極端に差があれば告知に問題があるのかということもありますが、応募状態については今は全部ホームページでも取れますし、広報にも入学案内などが入っていますから、そういう意味で地域別格差というのは特にないなというふうに感じていました。資料としてどこまで続ける意味があるのかなという気がちょっとしました。

○事務局（大橋主査）

前年度にもお出ししていた資料ですので、引き続き作成してはいるのですが、分析もなかなか難しいと思っております。行政ブロック別の表でも十分なかなとは思っております。石川副会長がおっしゃるとおり、地域差はそれほどないのかなと考えておりますので、この資料も内部資料とするのか、第三者委員の方がいるこのような協議会でお出しする資料とするのがいいのかというのは判断が難しいところです。

○高山会長

でも、校舎が移転してどういうふうに入学者が変わったかなというのは、町名が載っているとやっぱり近くの人が来ているとか、さっき説明がありましたように西部地区の人はバスで来なければいけないから不便だとか、そういう移転の影響というのはある程度皆さん分かったのではないかと思います。

ほかに何かございませんか。せつかくの機会ですので。

どうぞ。石川副会長。

○石川副会長

細かいのですが、アンケートの中でクラス会についての項目がございますね。その中で、くらしの教養学科2だけ突出して無回答が10となっているのですが、無回答が20人中10というのは半分無回答なので、何か意味合いがあったのかどうかご存じでしたら教えていただければと思います。

○事務局（古川主事）

くらしの教養学科担当の古川です。無回答の10というのは、お配りしたものをそのまま回収しています。書いていなければ無理に記入させることはしていませんので、理由までは把握はできていません。

○石川副会長

半分の方が無回答というのは、関心がないのか、何かがあったのかなという気がしたものですから。

○事務局（古川主事）

記録を見る限り、特段何か問題があったとか、そういったことはなかったと思います。

○石川副会長

分かりました。

○高山会長

私のほうから一点だけ。まちづくり学部の資料の中で、「1年間やって入学当初の期待や目標を達成されましたか」という資料、非常に興味深く見ました。ふなばしマイスター学科が26分の25でしたね。カリキュラムもきついでしょうが、その中で1年間一生懸命やったという生きがいが、ほかの学科もなるべくなら90%以上あったほうがいいのかなと感じました。特にマイスター学科は最近応募者も増えていきますし、そういうのが現れているのかなという感じがちょっとしました。感想です。

ほかに何かございませんか。よろしいですか。

それでは、議題2を終了いたします。

続きまして、議題3「特別講座の実施について」の議事に入ります。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（大橋主査）

それでは、議題3「特別講座の実施について」、ご報告をいたします。今日お配りしましたチラシをご覧ください。

特別講座の見直しにつきましては、以前この会議の中でも触れさせていただいておりますが、今回、詳細が決定いたしましたのでご報告をさせていただきます。

特別講座については、令和3年度からライフデザイン学科を実施しておりました。そして、令和4年度も学生の募集を行いました。応募者が3名という結果になり、応募者少数に伴い休講となりました。応募者が集まらなかった原因は、令和4年度は完全オンラインでの授業に変更したこと、授業の曜日を日曜日の午後に変更したことで、普通ですと日曜日はお休みですので、その日の午後も丸々授業で時間を取られてしまう、こういったことが理由ではないかなと考えました。

そこで、令和5年度の授業を開催するにあたりまして、オンライン開催での応募者が芳

しかなかったこと、それと、学生間の横のつながりをつくることがオンラインですとどうしても難しいという状況がございますので、対面方式での開催を希望していたのですが、講師側との折り合いがつきませんでしたので、ライフデザイン学科の開催は断念し、別の形式での開催を検討する旨、以前ご報告をさせていただいております。

今年度の特別講座につきましては、働いている世代の方でも参加しやすいように、年間を通しての授業ではなく全5回程度のコンパクトな内容とすること、平日夜間の時間帯で開催をすること、交通の利便性を考え、船橋駅など大きな駅の近くで開催をすることといたしました。働いている世代の方など、ふなばし市民大学校とは普段あまり関わりがないような方にもぜひご参加していただきたいと思っておりますが、興味がある方であればなたでもご参加いただけるようにしたいと考え、市内在住とか年齢等の制限は設けずに開催をすることといたしました。

資料3「ふなばし市民大学校のリカレント教育の推進に係る特別講座実施要綱」をご覧ください。長寿化が今後急激に進行する「人生100年時代」を迎えようとしており、この「人生100年時代」においては、転職や起業で新たな仕事を始めたり、子育てをしながら働く、定年後も新たな仕事に挑戦するなど、これまでとは異なる人生設計が必要になってくると言われております。そこで、今回の特別講座の実施目的を、第2条のところですが、「自らの人生設計を積極的に考え、生涯をとおして知識と時代の変化に応じたスキルを獲得することができるような内容を提供すること」といたしました。

具体的な内容としては、第3条のコースのところをご覧ください。今年度は「パラレルキャリア」と「ふなばしソーシャルビジネス」という2つのコースを設けることといたしました。

パラレルキャリアとは、ちょっと聞き慣れないかと思うのですが、本業以外の仕事や社会活動に積極的に参加する生き方のことを言ひまして、社会環境が大きく変化する中で、本業一辺倒ではない豊かな人生を目指すためですとか、本業にも還元できる幅広い経験や人脈を得る方法として、近年注目をされている生き方のことを言ひます。

講座の内容につきましては、今日お配りをしましたチラシをご覧ください。石山先生は日本でパラレルキャリアを研究されている第一人者と言われているような方になりますが、そういった大学教授や、実際に副業を実践されている大村先生、それから、後藤さんは普段はトラックの運転手をしながら副業として焼き芋屋をやっている方になります。こういった副業を実践されている方のお話を聞きながら、参加者同士のグルー

プワークを通じて、ご本人のキャリア形成に向けた新たな一步を踏み出すきっかけとなることを目指しております。

スケジュールは、9月6日から10月4日までの全5回、毎週水曜日の午後7時30分から9時まで、中央公民館の第8集会室で開催いたします。

募集は既に始まっておりまして、8月1日から受付を開始しております。8月1日号の広報ふなばし、船橋市ホームページ、あとは公共施設等でチラシを配布しております。また、昨晚ですが、SNS（船橋市公式ツイッター）でも周知を行ったところでございます。

申込方法は、電話もしくはオンラインでのお申し込みも可能となっております。

興味を持たれた方、お知り合いでこの人は興味がありそうだなという方がいらっしゃいましたら、ぜひお声かけいただくと助かります。昨日までの申込者が11名となっております。定員は35名となっておりますので、もし興味のある方がいらっしゃったらお声かけをお願いいたします。

そして、もう一つの「ふなばしソーシャルビジネス」コースにつきましては、現在、内容を詰めている段階ではございますが、環境、福祉、高齢化、地域の活性化など、こういった地域の課題をビジネスにつなげていく方法を、実際の事例や体験談を通じて参加者自身のイメージを明確化するきっかけにしてもらいたいということで企画をしているところでございます。

説明は以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの議題3「特別講座の実施について」、質問等がありましたらお願いいたします。

どうぞ、山口委員。

○山口委員

パラレルキャリアコースというのはおもしろそうですね、申し込み対象者は「どなたでも」とあります。でも、狙いとする年代はやっぱりあると思うんですね。

○事務局（大橋主査）

メインとして狙っている層は働いている世代の方になるので、20歳代後半から40歳代ぐらいの方をメインターゲットとして当初は想定しておりました。

○山口委員

そこを明記しなかった理由は。

○事務局（大橋主査）

初めてこういう形でやりますので、そこだけに限定してしまうと応募が全然ないかもしれないという不安がございまして、今回は幅広く行きたいというところで、どなたでも申し込み可能とし、船橋市内に住んでいない方でもお申込みいただけるという形にいたしました。

○山口委員

内容的によく分からないのですけれども、これはあくまで私の私見で、多分大丈夫だと思いますが、ライフデザイン学科を私も受けたんですよ。あれがうまくいかなかった一つの理由として、あれは具体的に、例えば定年を中間点にして、そこまでに何をやって、その後どうするというプランなんですよ。つまり、そこに集まってきた人たちが、その中間点を越えた60歳代、70歳代だけだったんですよ。そこに対するイメージとか説明がなかったもので、そういう方たちは今さら手遅れだよみたいな感じになってしまうんですよ。かつ、学ぶことも大事なんだけれども、あまりにもアカデミック過ぎてしまって、学びが高度過ぎて、自分の居場所をなくしてしまっているんですよ。自分の居場所がなくても一緒に帰りに酒を飲めればいいんだけど、しかもオンラインだというので、三重苦で僕はうまくいかなかったのではないかなと思うんですよ。

そういう意味合いで、こういうキャリア関係のものはある程度年代層を明確にしてあげる。年代でなくてもいいですよ。目的というか別の意味でのターゲットというのをもうちょっと明確にしたほうが、受けた方は満足度が高まるのではないかなというのが私の私見です。僕がライフデザイン学科を受けたのは、まだ60前だったのか、ぎりぎり60だったか微妙ですけども。

あとは、学ぶことが大事だという意識を持てば別にいいんですけども、そういう方ばかりでもないで、こういうキャリア系の特別講座をやるときは、その辺のターゲットをもうちょっとぼかしながらも明確にしたほうがいいのかという気はします。

確かに年代層をきっちり指定してしまうと、今の状況からだと、例えばこの狙いが30～40歳代だとしたら、そこを丸々明確にしたら多分来ないなというのは何となく分かるんですが、そうしたら、そこは年代ではなくて目的性だとかいろんなものを明確にしてあげないと、「あれ、違うな」という人が結構多いのではと思うので、ご参考までにということですよ。

○事務局（大橋主査）

ありがとうございます。先ほど、メインのターゲットを年代層で申し上げたのですけれども、一番は意欲的な方に来ていただきたいというところです。

○山口委員

ですよね。お金をある程度出してまで参加して、同じ意志を持った方と接するというのが多分一番大きい目的だと思います。だとしたら、その部分もどこかで感じ取れるようにアピールしていったほうがいいのかという気はします。あくまでも個人的意見です。よろしくをお願いします。

○事務局（大橋主査）

ありがとうございます。

○高山会長

8月1日に応募が始まって、もう既に11名というのは、なかなかすばらしいことですよ。やっぱり8月1日号の広報紙への掲載が効いたんですかね。

○山口委員

ちなみに、次の「ふなばしソーシャルビジネス」というのは、まだ決まっていないますか。

○事務局（大橋主査）

まだ、詳細は決まっています。

○高山会長

でも今年度にやるんですよ。

○事務局（大橋主査）

令和6年の1月から2月にかけて実施する予定でございます。

○高山会長

これは、年齢層はどこをターゲットにしていますか。

○事務局（大橋主査）

ソーシャルビジネスは仕事につなげるものになるので、年代層としては働いている世代、やはり20歳代後半から50歳ぐらいまでの方をメインには考えております。ただ、それ以外の方は申込みできないようにするつもりは今のところございません。

○高山会長

ほかに何かございませんか。よろしいですか。

それでは、議題3を終了いたします。

続きまして、議題4「その他」について、何か事務局から報告事項等ありますでしょうか。

○山本委員

私からちょっとお聞きしたいことがあるんですけども。

○高山会長

どうぞ。山本委員。

○山本委員

昨年度末、ふなばし市民大学校の卒業生に「学びノート」を配付して、その趣旨もよく理解して今年度動いていると思うのですが、どうでしょうか。「学びノート」の反響と言うんですか、使いやすいとか使いづらいとか、あまり意味がないとか、そんな反響が市民大学校に何か入っていますでしょうか。

○事務局（大橋主査）

「ふなばし学びノート」ですけれども、本当に学生によって差がありまして、関心のない方はそもそもやっていないですが、毎回忘れずに持ってきて「押して」と喜んで出してくださる方もいらっしゃいます。

○事務局（古川主事）

学科によります。

○事務局（大橋主査）

パソコン学科ですと4分の1ぐらいの方が積極的に出してくれて、喜んで押して帰っていただいています。そういった方は、公民館の講座などにも参加してポイントをためていて、非常に楽しみにして毎回やっています。ためていくことが楽しいとおっしゃっている方もいらっしゃいます。

○山本委員

やっぱり活性化していくためにはその趣旨をちゃんと理解してもらって、特にふなばし市民大学校の学生さんたちは多分意識はすごく高いものを持っていると思うんですね。ですから、年間を通して時々アピールしていくとか、そういうものも必要なのではないかなと思います。感じたことです。

○事務局（大橋主査）

ありがとうございます。

○高山会長

公民館の寿大学等でも非常に関心のある方は押してもらっているんですけども、大体7～8割の方は持っていないとか関心がない。公民館の方にもどんどんPRしてくださいとお願いはしているんですけどね。

事務局から何か報告事項はありますか。

○事務局（大橋主査）

事務局からは特にございません。

○高山会長

ほかに何か。議題以外でも何かありましたら、せっかくの機会ですので。

特段よろしいですか。

それでは、本日の議題は全て終了いたしました。改めまして、今回の全ての議事を通じて最後に何か質問等がありましたらお願いいたします。

ないようですので、これをもちまして質疑を終了いたします。

本日の議事は全て終了いたしました。

なお、本日の議事録の署名は、山口委員及び川田委員にお願いしたいと思います。

以上をもちまして、令和5年度第1回ふなばし市民大学校運営協議会を閉会いたします。
ありがとうございました。

午後2時25分閉会